

第65回国立病院総合医学会報告



今年は岡山市内で第62回国立病院総合医学会が開催されました。

国立病院機構のみならず、国立高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所の全職種の職員約6000人が参加し、「明日の医療のために」というテーマのもと多くの討議がなされていました。

私たち南京都病院看護部からは、神経内科病棟と重症心身障害児(者)病棟、治験管理室の看護師から計3題のポスター発表を行いました。

ここに発表者とテーマ、そして発表者の一言をご紹介します。

【 神経難病患者の看護業務量調査の分析 ～タイムスタディ調査をとおして～ 】

発表者：神経内科病棟 浅井久美恵看護師

とても緊張したけど
楽しく発表できました



【 重症心身障害児(者)へのがん看護の検討

～看護師の五感を生かした観察項目の統一評価化を試みて～ 】【

発表者：重症心身障害児(者)病棟

井上ひでみ看護師



他の施設の方と語り合うこともでき、良かったです。
ポスター賞もとりました！

【 院内スタッフの治験に対する認識

～看護師とコメディカルスタッフとの違い～ 】【

発表者：外来・治験管理室

北地 祐子副看護師長



今年に入り、治験関係で
4回目のポスター発表です。
治験看護師として
がんばってます。

学会に参加し、他施設の方と討議をすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。